

3. 樺島の変成岩と花こう岩

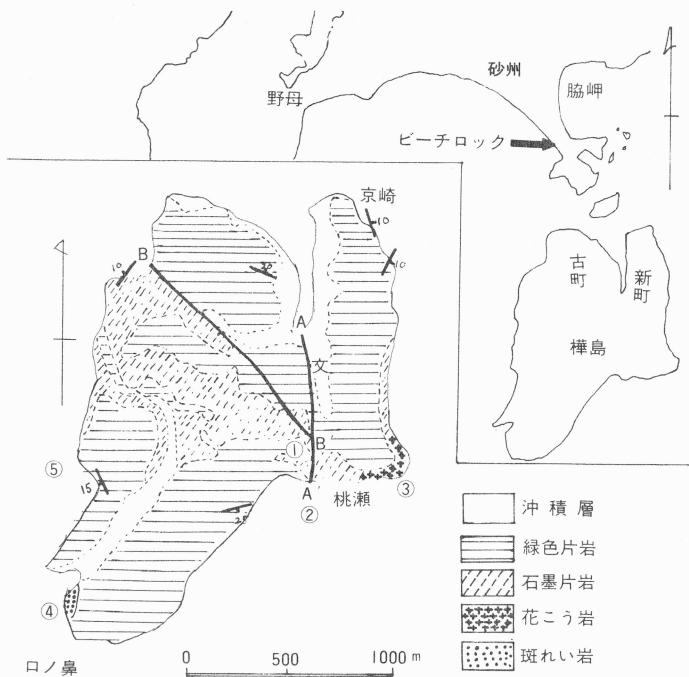
地 域 西彼杵郡野母崎町樺島
交 通 長崎バス 脇岬下車，脇岬—樺島（船で10分）
地形図 肥前高島（1/50,000），野母（1/25,000）

断層 断層A A'，B B'の分岐点付近と思われる地点①に露頭がみられる。②の海岸では断層破碎帯の様子がよく分る。断層線にそって農道ができていますので断層の確認ができる。

花こう岩と変成岩の接触変成作用 ②から東へ向い“桃瀬”③の海岸で微斜長石黒雲母花こう岩の露頭をみる。この岩体には海食洞が著しく発達しかなり奥まで小舟では入れる。この花こう岩は、野母半島の形成に大きな役割を果たした褶曲構造と、野母半島の主要断層群の生成以前に貫入したものと考えられている。花こう岩の周縁の結晶片岩は、片状構造をほとんど失ってホルンフェルスとなっている。一般に黒雲母ホルンフェルスであるが、白雲母ホルンフェルス、紅柱石ホルンフェルス等もみられる。結晶片岩の片理はホルンフェルス帯の直前まで保存され、接触帯の最外側は黒色片岩がその片理にそって黒雲母片岩化され、見かけ上黒雲母片岩と黒色片岩との互層のように見える。また、この帯には微斜長・ペルト長石脈が片理に平行に入っている。黒色片岩、緑色片岩は接触変成作用によりいずれも黒雲母片岩に変っている。花こう岩との接触部から片理方向に平行に距離を追って接触変成作用の強さが変わるのを見ることが出来る。

④では斑れい岩に貫かれた緑色片岩が変質しているのがみられる。

⑤の西海岸一帯では、スチルプノメレンが緑色片岩中に分布し、単鉱物脈、含石英方解石脈、珪質片岩薄層として含まれている。



榑島の地質図（岩崎，大島による）

他に石灰岩レンズもみられるが、硬砂岩レンズは黒色片岩中にはさまれ著しく片理方向にのびている。（藤田 光）